

# 世界に平和を・戦争の基地はいらない

横田基地ミニ情報 2019.9.15 NO.359 東京・羽村平和委員会発行



## CVオスプレイ、クラスAとBの事故件数は、合計で41件も

米空軍の保有しているCV-22オスプレイは、2018年現在50機で、ミッション達成率（今後は稼働率と記す）は、60%であることが分かりました。ということは稼働できるのは30機ということ。それなのに、これまでCVオスプレイのクラスAの事故は5件、クラスBの事故は36件、合わせて損害額50万ドル以上の事故は41件になります。そんなに事故を起こす危険なCVオスプレイが、私たちの頭上を飛び回っています。アメリカに帰ってもらいましょう。事故が起こってからでは遅すぎます。



2010/4/9 アフガニスタンでの着陸失敗で4人死亡（米空軍事故報告書より）

年度別	クラスA・クラスB事故の件数	
年度	クラスA	クラスB
2006	0	1
2007	0	0
2008	0	1
2009	1	0
2010	1	1
2011	0	2
2012	1	2
2013	0	1
2014	0	5
2015	0	6
2016	0	4
2017	0	7
2018	2	6
合計	5	36

## CVオスプレイ、2018年現在、稼働出来るのは30機だけ

米空軍の保有機数とミッション達成率		
機種	保有機数	ミッション達成率
B-1B	62機	51.75%
B-2A	20機	60.70%
B-52H	75機	69.30%
CV-22B	50機	59.41%
F-15C	212機	71.47%
F-15E	218機	71.16%
F-16C	725機	70.03%
F-22A	186機	51.74%
F-35A	147機	49.55%
C-5M	50機	62.77%
C-17A	222機	82.57%
C-130H	177機	68.30%
C-130J	123機	76.68%
MQ-1B	93機	92.20%
MQ-9A	247機	90.24%
RQ-4B	34機	73.65%
U-2	27機	76.90%
T-1A	178機	58.90%

Air Force Timesによれば、米空軍のミッション達成率が、2012年(77.90%)以来6年連続で下がりつづけ、2018年(2017年10月1日から2018年9月30日)には遂に70%を切って66.97%を記録している。

ミッション達成率とは、対空任務や対地任務など、複数の任務をこなす航空機が、どれか一つでも任務をこなせる状態にあることを指し示した指標。

フルミッション達成率は、すべての任務をこなせる状態にあることを指し示した指標。

2018年に記録された66.97%という数値は、米空軍が保有している5413機の平均ミッション達成率で、フルミッション達成率の平均は明らかになっていないが、平均ミッション達成率より低い数字なのは確実だ。

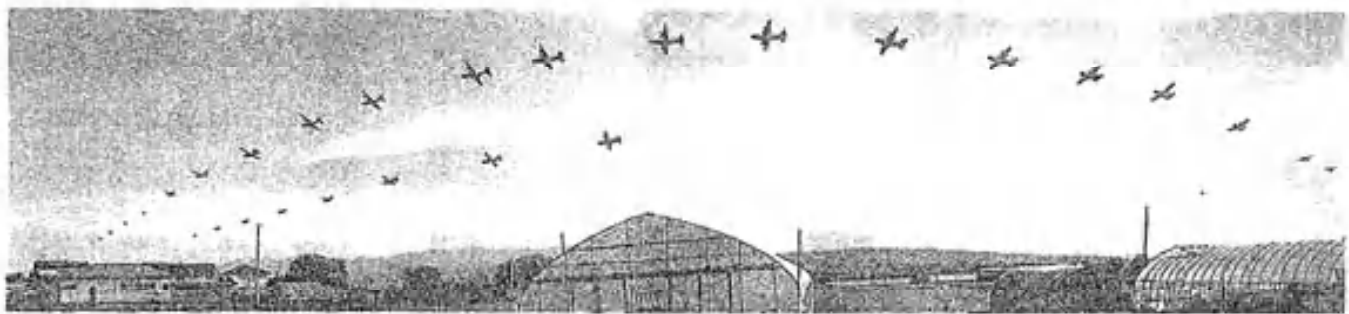
米空軍は、ミッション達成率低下の直接的な原因には「航空機の老朽化」を挙げた。

30年前、米空軍機の平均年齢は10年前後だったが、2018年の平均年齢は27年に達している。

これは、「戦闘機や爆撃機の老朽化が原因？米軍機、保有機数の稼働率、67%に落ち込む」(航空機万能論GF)を参考にしました。

9月14日、15日、横田基地友好祭に陸上自衛隊が参加  
32名、パラシュート降下。撤去の会は15日、座り込み

# 横田のC130輸送機、佐久地方で日米合意違反の低空飛行 高度は215メートルから290メートルと調査で判った



## 横田基地の環境問題 過去のこともしておこう

**横田で 過去に18,000ガロン(ドラム缶340本分)の燃料漏れ事故があった!**

大量の燃料 (JP-4) 漏れ事故が発生したのは、1993年10月25日でした。18,000ガロン (6万8千ℓ) の燃料漏れという重大な事故が地元自治体に伝わったのは、なんと10日後でした。

地元自治体は抗議や様々な要請をしました。が、情報はわずかでした。地下汚染状況の最終報告書 (英文) が東京都を通じて地元へ届いたのは、なんと2年後。地元市町長は、最終報告書の全文を日本語訳にする、燃料の除去作業や進捗状況の報告書の開示など要請しました。

「この場所は調査され、燃料漏れ事故に対処するため約10年の歳月と200万ドルの経費を費やして浄化された。」と、除去作業を打ち切り最終報告書を出したのは2003年5月でした。

### 1999年～2006年 横田基地と関連施設で7年間に90件の有害物質漏れ

米国の情報公開法に基づいて開示された資料から明らかになったのが、7年間で90件の有害物質漏れです。資料は一橋大学院生の林公則さんらが入手しました。

米軍側の流出量などによる区分で分類すると、流出量が1万ガロン (約37,800ℓ) 以上で危険度が「公衆の健康や安全に深刻な脅威を与える」とされる事故は1件です。2004年8月、横田基地の関連施設の所沢通信施設で、2万9千ガロンの軽油が流出しました。地元へ情報提供されたのは、この1件

だけです。この資料以降に燃料漏れ事故はなかったのでしょうか。今年7月に燃料漏れ事故が1件表面化しましたが…。

横田基地の漏れ事故の件数 (漏れ量別、報告書の有無別) 単位: 件

		1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	計
事故総数		4	11	4	7	14	16	28	6	90
漏れ量 (ガロン)	10,000 以上	0	0	0	0	0	1	0	0	1
	1,000 ~ 10,000	0	0	0	1	0	0	1	0	2
	100 ~ 1,000	0	0	3	2	1	0	0	0	6
	100 未満	3	8	1	3	13	15	26	6	75
	不明	1	3	0	1	0	0	1	0	6
EIIB 報告書	有	0	0	3	3	1	2	1	0	10
	無	4	11	1	4	13	14	27	6	80

\* 2006年8月10日に情報公開された米太平洋軍の資料より、林公則氏が作成。  
\* 1ガロンは、約3.785ℓに相当。  
\* EIIB (Environmental Incident Investigation Board) (漏れ量別、環境事故調査委員会)

○ 10月5日(土)は、沖縄とともに声をあげよう

横田基地もいらない! 市民交流集会です。ご参加ください